

## 授業の考察 < 中学校 > 「友達のトラブルを解決する方法を練習しよう」

### 考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、中学校5時間の授業を、以下の、の2点を視点に考察します。

#### 授業の考察の視点

本時のねらいを達成できたか  
活動プログラムのまとめとして適切な内容であったか

なお、考察のために抽出した生徒の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

### 本時のねらいを達成できたかについての考察

は成果、は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

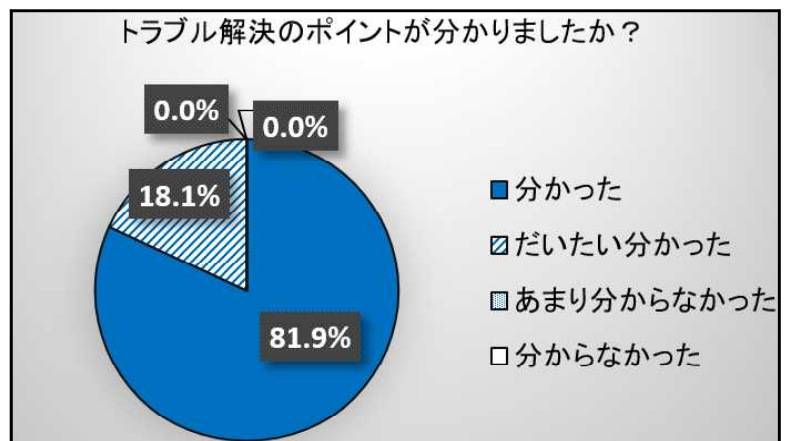
本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

- ・振り返りシートの質問項目「トラブル解決のポイントが分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること
- ・振り返りシートの質問項目「トラブル解決のポイントに気を付けて練習できましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること

#### 1 トラブル解決のポイントの理解について

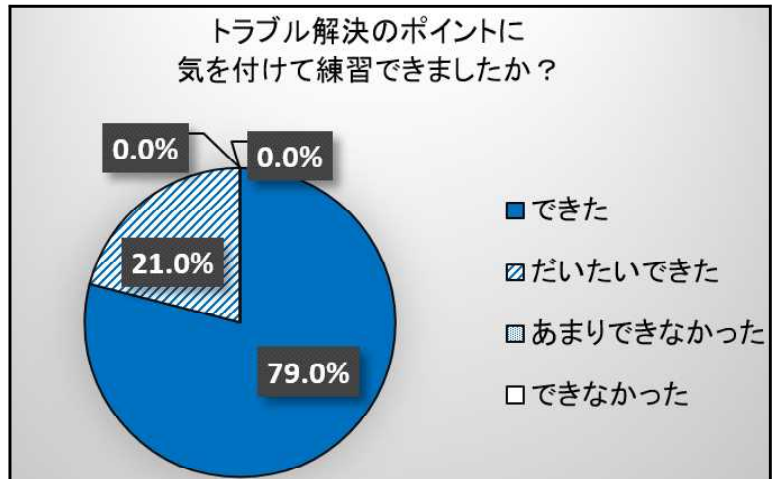
振り返りシートの「トラブル解決のポイントが分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した生徒の合計は100%で、全ての生徒がトラブル解決のポイントを理解することができました(資料1)。前時の同じ質問に「分かった」と回答した生徒は67.1%で、本時では81.9%に増加していることから、練習を通して繰り返し学習することで生徒の理解が深まったのではないかと考えます。



資料1 トラブル解決のポイントの理解についてのアンケート結果(振り返りシートより)

2 トラブル解決のポイントを使った練習について

振り返りシートの「トラブル解決のポイントに気を付けて練習できましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は100%で、全ての生徒がトラブル解決のポイントを意識しながら練習し、その理解を深めることができました（資料2）。



資料2 トラブル解決のポイントを使った練習についてのアンケート結果(振り返りシートより)

トラブル場面のシナリオを考え、グループで役割を交代しながら練習しました。間に入る役を終える毎に、観察役がトラブル解決のポイントを使っていたかをチェックをしたり、ポイント以外で良かったところを間に入る役にフィードバックしたりすることで、トラブル解決のポイントを意識しながら練習することができました。活動をメインにしたため、トラブル解決のポイントや間に入る役の重要性について理解を深めることができましたと考えます（資料3、4）。

【トラブル解決のポイント】	チェック	ポイント以外で良かったところ (表情や口調、タイミングなど)
①トラブルの当事者である2人に、間に入ることを確認する	◎ ○ △	約束ごとの確認が良かった。 両方が感じたことなどについて 相対的なやり取りができていた。
②トラブルの当事者である2人に、相手の話を最後まで聴くことを約束させる	◎ ○ △	
③トラブルの当事者である2人の言い分をくり返ししながら平等に聴く	◎ ○ △	
④解決案を出さない	◎ ○ △	

※トラブルが解決しない場合は、大人に話す

資料3 トラブル解決のポイントを意識した練習についての生徒の記述(ワークシートより)

強い口調にならないようにやわらかい口調で、両方の言い分を平等に聞くようにした。また、言い分の間違いないように繰り返し言った。

A君とB君に対しての言葉づかいや、態度を意識して、2人に対して平等に接するようにした。

資料4 トラブル解決のポイントを意識した練習についての生徒の記述(ワークシートより)

以上のことから、生徒はトラブル解決のポイントについての理解を深めるとともに意欲的に練習に参加しており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

**活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかについての考察**

は成果、 は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

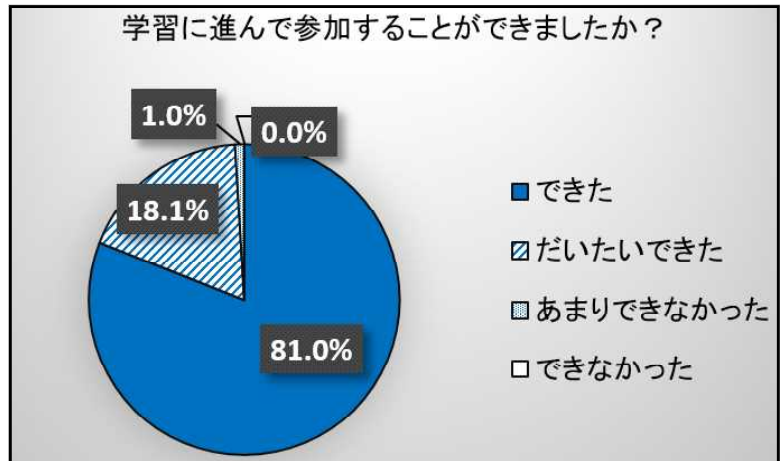
活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかを、 の本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表2の「活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表2 活動プログラムのまとめとして適切な内容であったかを判断する目安

・振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日の学習の前後で、トラブルを解決することについての考え方が変わりましたか」で、「変わった」「少し変わった」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

1 学習に進んで参加することができたかについて

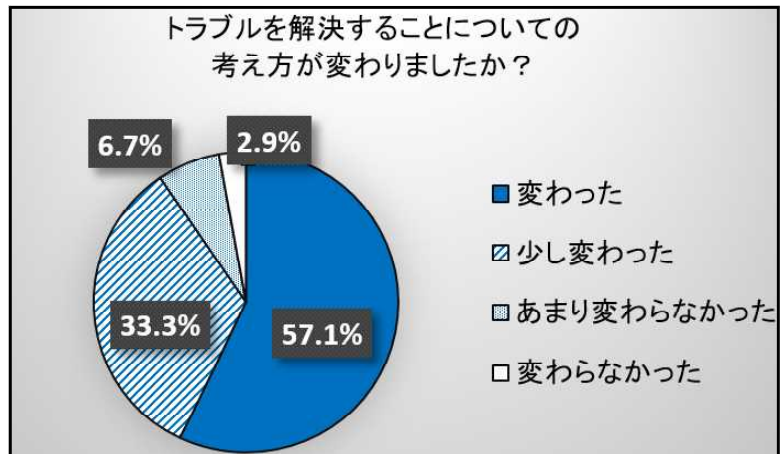
振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した生徒の合計は97.1%で、ほとんどの生徒が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料5）。



資料5 学習への参加状況についてのアンケート結果 (振り返りシートより)

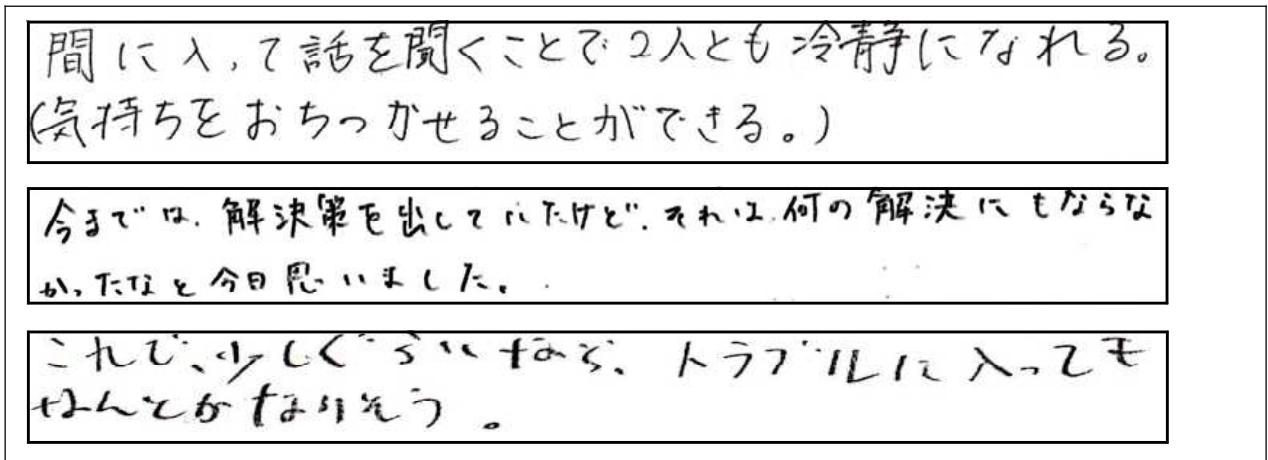
2 学習の前後のトラブルを解決することについての考え方の変化について

振り返りシートの「トラブルを解決することについての考え方が変わりましたか」の質問に対して「変わった」「少し変わった」と回答した生徒の合計は90.4%で、ほとんどの生徒が学習の前後でトラブルを解決することについての考え方が変わったことが分かりました（資料6）。その理由として、当事者の間に入ることの必要性やトラブル解決のポイントの意味の理解が深まったことを挙



資料6 トラブルを解決することについての考え方の変化についてのアンケート結果

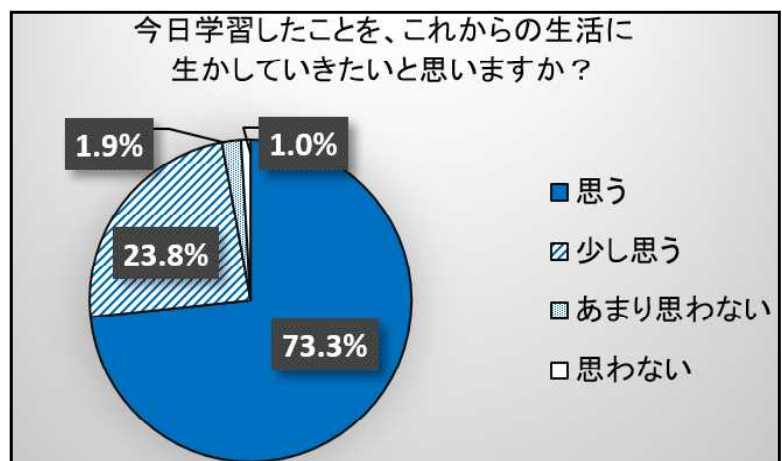
げていました。また、そのことが間に入ることに對する不安感の軽減につながった生徒もいることも分かりました(資料7)。



資料7 トラブルを解決することについての考え方が「変わった」「だいたい変わった」と答えた生徒の記述(振り返りシートより)

### 3 学習内容の今後の活用について

振り返りシートの「今日学習したことをこれからの生活に生かしていきたいと思いませんか?」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した生徒の合計は97.1%で、ほとんどの生徒が、学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思っていることが分かりました(資料8)。実際に生徒が、掛ける言葉を自分で考え、その言葉を使って練習することで自分のこととして捉えることができたため、日常場面で活用したいという意欲につながったと考えます(次頁資料9)。



資料8 学習内容の今後の活用についてのアンケート結果(振り返りシートより)

私は、今日の学習をしてみて、第三者の立場にいる時に  
 “どんな行動をすれば”いいかを考えることができました。  
 二人の間に入るのは、ちょっと勇気がいる事だ“けど”、  
 二人の仲や関係が悪いほうにエスカレートしないためには、  
 第三者の立場が“必要”になってくるんだ”と思いました。

今日の授業で、Cさんが入る前まではAさんとBさんがいいあっていて  
 おさまリエウにならなけど、Cさんが間に入って、おたがいの言  
 分を聞いてあげたりする事で問題が解決に近づくという  
 事が分かったのでもかたごす。これから言し分っている人が多  
 いたら、今日演じたCさんのように解決につながるようにしたいです。

資料9 学習内容の今後の活用についての生徒の感想(振り返りシートより)

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、生徒が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、活動プログラムのまとめとして適切な内容であったことが分かりました。